

帯広市の南西部に広がる「帯広の森」は、市民有志らによる森づくりが始まって今年で50年を迎えた。2004年まで計30回行われた市民植樹祭に、実行委員会のメンバーとして初回から携わり、現在は市民団体「エゾリスの会」会長として帯広の森の育成や調査に取り組む三日市則昭さん(74)にこれまでの歩みと次の50年への思いを聞いた。

帯広の森づくりに50年携わる

み っかいち のりあき
三日市 則昭さん(74)

＝帯広市

「帯広の森はどのような場所ですか。」

「50年前は牧草地や畑が広がり、木がほばない状態でしたが、2024年度の調査では植物約1800種、鳥類約45種、チョウ約40種を確認でき、自然豊かな空間になってきています。広さは406.5ヘクタール。単なる森ではなく都市公園なの

7千人以上集まったそうですね。なぜ多くの市民が参加したのでしょうか。」

「報道されることで、帯広の森はすごく重要なんだという意識が芽生えました。植樹祭自体が一つのお祭りになったということもあるでしょう。市民による実行委が主催なので堅苦しくなく、カントを教えてください。」

「エゾリスの会で調査を」と、
「『発見』がすごく新鮮です。こんなチョウがいるんだとか、こんな植物があるんだとか。シジミチョウは奇麗なのですが、調査するまで帯広の森にいたこと知りませんでした。自分で歩くことでいろいろな発見ができます。それと、森が育ってきたので木漏れ日がとても美しい。見ただけでずっと差念が払われて、森に来て良かったなという気持ちになりますね」

「今、森づくりの課題はありますか。」

調査での「発見」すごく新鮮

で、運動施設もあり、市民が自由に入って遊べる場所でもあります」

は。

「私が市役所に入った1973年には、森づくりの構想は始まっていました。当時の吉村博市長に、市街地が緑で囲まれた心地よいまちをつくりたいという理念があったと聞いています。1回目の植樹祭は職場の先輩に『おまえも来い』と誘われて行っただけで、最初はあまり積極的ではなかったかもしれない。森づくりを進める中で、ゆっくりでもちゃんと育っている木と一緒に自分も成長している気がして、楽しいなどのめり込みました」

「市民植樹祭には、多いときは



木漏れ日の差す帯広の森で笑顔を見せる三日市則昭さん(金本綾子撮影)

1951年、十勝管内豊頃町生まれ。東海大工学部建築学科を卒業後、73年に帯広市役所入りし、建築畑を歩んだ。現在、帯広の森の育成や動植物の調査に取り組むボランティア団体「エゾリスの会」の会長を務める。

ような場所で
7千人以上集まったそうですね。
なぜ多くの市民が参加したのです
でしょうか。

したが、20
植物約180
約40種を確
空間になっ
406.5畝。
市公園なの
主催なので堅苦しくなく、カント

リーソングのコンサートを開いた
り、焼き肉をしたり、イベントの
場にもなっていました。事務局は
市ですが、あくまでも市民による
森づくりとして始まり、市民で育
てることが連綿と受け継がれてき
たことが良かったと思います」
―三日市さん流の森の楽しみ方
を教えてください。

「エゾリスの会で調査をしてい
ると、『発見』がすごく新鮮です。
こんなチョウがいるんだとか、こ
んな植物があるんだとか。シジミ
チョウは奇麗なのですが、調査す
るまで帯広の森にしていると知りませ
んでした。自分で歩くことでいろ
いろな発見ができます。それと、
森が育ってきたので木漏れ日がと
ても美しい。見ただけでずっと雑
念が払われて、森に来て良かった
なという気持ちになりますね」
―今、森づくりの課題はありま
すか。

での「発見」すごく新鮮

輝いて

道東
ひと巡り

「一番の課題は、間伐など森を
育てる市民団体のメンバーの高齡
化です。若い人たちにも、もっと
森に入ってきてもらいたい。足を
踏み入れるのにハードルがあると
思っているかもしれませんが、ま
ずは遊びという気持ちで。例えば
ゴミを拾う、野の花を調べる、交
流サイト(SNS)で発信するこ
とも、森を育てる行為だと思いま
す」

―50年後、どんな森になってい
てほしいですか。

「帯広の森は不変ではありませ
ん。その時々の方が楽しく心地よ
く使えるようにしてほしいです
ね。今の帯広の森の骨格にとらわ
れず、市内の緑ヶ丘公園とグリー
ンパーク、少年院跡地と一体的に
整備して森が広がれば、素晴らしい
帯広のまちになるのかなと思っ
ます」

木漏れ日の差し込む帯広の森で笑顔を見せる三日市則昭さん(金本綾子撮影)



1951年、十勝管内豊頃町生まれ。東海大工学部建築学科を卒業後、73年に帯広市役所入りし、建築畑を歩んだ。現在、帯広の森の育成や動植物の調査に取り組むボランティア団体「エゾリスの会」の会長を務める。

市民が自由に
もあります」
わるきっかけ
った1973
構想は始まっ
―村博市長に、
た心地よいま
つ理念があっ
―回目的植樹
「まえも来い」
て、最初はあ
ったかもしれ
進める中で、
と育っている
長している気
のめり込みま
多いときは